

(阿久比町)

市町村の 基本情報	学校数	小学校4校、中学校1校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員		0人
		地域学校協働活動推進員		4人
	CS及び地域学校協働本部設置状況	CSを導入している学校数	小 4校	中 0校
		地域学校協働本部がカバーしている学校数	小 0校	中 0校



【南部小学校 学校運営協議会の様子】

(活動の実際)

本町では、令和6年度に1つの小学校をモデル校として先行実施し、今年度すべての小学校において学校運営協議会を設置するとともに、地域学校協働活動推進員を配置した。

これまで、学区会やコミュニティ、家庭教育推進協議会（家推協）、学校PTAなど、さまざまな組織が連携して校内外、地区の行事や活動に取り組んできたが、その組織間の連携にとどまらず地域学校協働本部が将来的に担っていくことができるようスタートしたところである。

当該校においては、活動拠点となるコミュニティ・ルームを校内に設置した。学校が必要としている活動について「地域支援ボランティア」として登録していただき、支援・見守り活動を徐々に広げて実施している。

- ・見守りボランティア（通学路の見守り、朝の校内見守り、昼休みの見守り）
- ・環境整備ボランティア（花壇の水やり・草取り、校庭の手入れ）
- ・図書ボランティア（読み聞かせ、図書整備・修繕）
- ・学習サポートボランティア（土曜学習の見守り、校外学習の見守り、家庭科・図画工作科のサポート）

(◎成果と●課題)

- ◎地元の方に推進員を担っていただき、学校との連携を図る枠組みを全小学校で開始できた。
- ◎学校のことを知ってもらい、学校に来ていただく機会を設けることで、多くの方に幅広く学校を支援していただくことができる。
- 地域住民への理解を得るための周知活動が必要だが、学校ごとに状況が異なるために、一様にビジョンを伝えることの難しさを感じている。学校、教育委員会と連携して行っていく必要がある。

(関係者の声)

- ・学校・学級として「どんな支援を願うのか」「何を求めているのか」を教員に聞いてほしい。そうすることで、ニーズに合ったサポートができる。(運営協議会委員)
- ・理由がないと学校に足を運びづらい、何をしに来たらいいのか分からない。(地域住民)
- ・学習サポートは、作業することで困っている児童に支援し、達成感をもてるようにサポートしてもらいたい。しかし、地域の方からのご指導と教員の指示とに相違があった場合、子供たちがどちらの方針に従うべきか戸惑う場面がでてきてしまうことも想定されるため、どの程度の支援をしてもらうのか、事前の打ち合わせが必要だと感じている。(教師)
- ・自ら学校に足を運ぼうという積極的な住民が必ずしも多くない地区であるため、「こんなことでも協力できるんだ」という呼びかけを教育委員会とともにしていくことが必要だと感じている。(学校)
- ・学校運営協議会制度に関する町単独での予算措置が難しいため、今後も県の補助金制度を継続していただけるとありがたい。(教育委員会)